

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800700		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あやすぎの里		
所在地	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4370800700&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の多い長閑な地区になり、散歩の際など四季をふんだんに感じる事が出来る。地域の催しや、サロンなど関係者との関係づくりに努め、参加の機会を持てるように取り組んでいる。また、併設施設や近隣小学校などと交流を行い、刺激を持てる工夫や利用者様がこれまで気付かれた関係性の継続に配慮している。運営推進会議などを通じて、協力者を得れるような関係づくりに取り組みは始めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誠実で意欲的な職員に恵まれており、全員で話し合い、サービス向上に努める気風が随所に感じ取れた。管理者は、職員の疲弊がケアの質の低下に繋がることを重視し、休憩時間の確保や意見を言い出しやすい雰囲気作りに努め、ゆとりある職場環境が作られている。勉強の機会も多く、職員は目標を持って自己研鑽に励んでおり、学びがケアに活かされ、入居者の和やかな暮らしに結びついている。運営推進会議には地域で活躍する人が多数参加し、大きな協力を得ている。会議参加者の提案と力添えによって、ふれあいサロンや地域行事への参加が円滑に進み、住民とのつながりが深められている。家族会にはほとんどの家族が参加し、知人等の訪問も多く見られるのは、事業所が地域との交流や馴染みの関係継続に尽力した成果と思われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念のもと、常に情報の共有に努め、理念の実践に努めている。	理念には「地域貢献と高度な専門性を持ったケア」が挙げられ、グループホームの使命を踏まえた内容となっている。毎年度、理念に沿ったケア目標を立て、年度末に全職員で振り返りを行うことで、職員の意識が深まり、日々の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サロンへの参加や、地域防災訓練への参加など、少しずつ地域との方々との関わりも持て始めている。	地域行事やふれあいサロン等に参加し、地域との交流を深めている。サロンでは、入居者が知人との再会を喜ぶだけでなく、在宅の高齢者から「勇気づけられた」との声も聞かれ、相互に心の活性化が図られている。小学生を招いての芋掘り会や、中学・高校生の体験学習の受け入れ、保育園児の訪問など、子どもたちとの交流も活発に行われ、入居者の大きな楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議による、情報の共有と、伝達。 ・防災訓練へも参加し、意見交換等		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時に、相談に応じたり、情報共有や収集を行い、行事などの開催に繋がっている。	運営推進会議には、家族の他に地域包括支援センター・社協・老人会・民生委員・福祉協力委員・認知症サポーター等多くの参加者を得て、活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かされている。地元のサロン参加は福祉協力委員の提案と仲介があって実現。ボランティアの呼びかけも、会議で依頼し、社協との連携に結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき、情報の共有や依頼があった際には、可能な限りの協力を行っている。	社協が実施しているボランティア事業と連携し、互いに情報交換を行い、入居者の話し相手や外出に付き添ってくれるボランティアの確保に努めている。介護保険申請等の手続きに、山鹿市の担当窓口を訪れるが、ホームの状況を伝え、話し合うまでには至っていない。	市の担当者に毎月のホーム便りを手渡すなど工夫し、協力関係が深められることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを前提としており、状況に応じて、スタッフ間での検討をしっかりと行い、実践している。	転倒が予測される人には、ベッドのシーツの下にセンサーを敷くなど、早めに察知して見守り、事故回避に努めている。拘束を意味する言葉や、ニュアンスにも注意を払い、介護場面やミーティング等での指導が実施されている。庭への出入りが自由にでき、洗濯物を干す入居者の姿が見られ、拘束のない伸び伸びとした暮らしぶりが感じ取れた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日常的に、意見の交換を行い、常に意識しながら虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等へ参加し、参加できなかったスタッフに対しても、資料などによる伝達を行い学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、しっかりとした説明に努め、必要時には、時間を取り説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族、また近隣住民より要望等が出た際には、すぐにスタッフ間での検討を行い、可能な限り運営に反映している。	家族訪問時に、暮らしぶりを伝え、要望を聴き取る他に、運営推進会議や、年1回家族会を開催し、意見を引き出すように努力している。家族会では、会終了後に家族だけの歓談の時間もあり、他県在住の家族も含めて、ほぼ全員の参加が得られている。これまでに「こいのぼりを上げてほしい」「運営推進会議の家族参加を順番にしてはどうか」等の意見が上がり、実践に移されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、提案や意見が出た際には、十分に時間を取り、しっかりと話の聞き取りに努めている。また、代表者は、管理者を通じて意見の伝達を行い、可能な限りの反映に努めている。	業務の中で、あるいは休憩時間に意見が出ることもあり、ミーティングで検討し、運営に反映させている。「休憩時間が欲しい」の要望には、職員配置や業務を見直し、徐々に時間を確保して、現在は1時間の休憩が可能になっている。庭でテイクタイムを取るための簡易テーブルや、便利な掃除用品の購入は職員の提案が活かされ、サービスの向上に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限りの要望を反映できるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの個性を活かせる様な役割分担を行い、適した研修会への参加や発表の場を作るなど各人の能力向上の機会作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加などの機会を持ち、要望があれば、スタッフの希望する研修会への参加も実施出来るように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や関係者から聞き取りを行い、全スタッフが本人の状況をしっかりと理解し関われるようにしている。情報を踏まえて、その方の話に傾聴し心を許せる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り多くの情報を得られるように、しっかりと時間をかけて聞き取りをし、入居後も面会の際なども、状況の報告相談を行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じすぐに必要と思われるサービスの導入が迅速に行えるような関係者・関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その利用者の能力をスタッフ間で情報を共有・理解し日、本人が自身を持って日常生活を送れるような援助の工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も積極的な関わりを継続的に持てる様な環境作り・機会作りに努めている。遠方に住む家族のかたがたについてのアプローチの仕方については検討が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もそれまでに関わって来られた方々との関係が維持できるよう、外出の機会を持ったりと支援・配慮に努めている。	自宅を気に掛ける人には、希望時や通院の帰りに自宅に立ち寄るなどの支援を行い、不安解消に努めている。また、母体特養に付き添い、ショートステイ・デイサービスを利用する知人との再会を楽しんでもらっている。ふれあいサロンへの参加がきっかけで、馴染みの民生委員の訪問が始まったり、元教師の入居者のもとには、教え子の訪問が時折見られる等、家族の他の訪問も多く、ホームの温かい雰囲気作りや外出支援等、馴染みの関係継続に努力した成果と思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに支え合えるような関係が持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、管理者が時折家族へ連絡をし、現状の聞き取りを行ったり、担当ケアマネージャーからの聞き取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の時間をかけた聞き取りに努め、日常生活においても、様々な活動の中で話をする中から、興味や想いを引き出せるようにしている。	ゆったりとした暮らしの中で、入居者一人一人の話に耳を傾け、意向を汲み取るよう努めている。言語によるコミュニケーションだけに頼らず、表情やしぐさを細やかに観察し、思いを感じ取ることができるようにと、ミーティング等チャンスを捉えて、感性を育てる教育が行われている。更に、ケース記録の書き方を検討し、記録の振り返りから、意向を見い出す努力もみられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やそれまでの担当ケアマネージャや、知人から、可能なかじりの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーを中心にアセスメントを行い、現状の把握を行い日常のケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で得たニーズや課題を、スタッフ間でのカンファレンスや本人・家族との話し合い、時には知人や運営推進会議でのアドバイスを受けてプランを作成し、より良いケアの提供に繋げている。	介護支援専門員を中心に、本人・家族と話し合い、また、職員からの情報やケース記録を参考にアセスメントを行い、介護計画を作成している。その後、家族・職員が参加する担当者会議を開き、計画内容を再度検討し、決定に至るなど、丁寧な手順が踏まれている。計画には、介護内容が詳細に記載されており、一貫した介護の提供に繋がっている。尚、定期に計画を評価し、介護の見直しも実施されており、熱心な取り組みは高く評価できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じ記録様式の検討を行い、その方の暮らしや現状の課題、確実な情報の共有につなげられる様な記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会に相談し、開催事業に参加したり、地域の核となる方々との連携を取りながら、柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上記の様なサービスの利用や、地域サロンへの参加など楽しみ作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を最大限尊重しながら、入居後のかかりつけ医を決めている。主治医が変わるときには、安心した医療を継続して受けられるような情報の伝達・共有を行っている。	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿っているが、緊急時の対応が困難な医院もあり、休日や夜間にも対応できる病院とも協力体制を築いている。日々の健康管理や受診時の情報提供、病状の変化が見られた場合には医師に連絡、相談するなど行い、家族の安心が得られている。受診の付き添いは家族と話し合い、必要時は職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常態の変化がある場合には、すぐに主治医に相談・対応を行い、本人・家族の安心につなげられる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、面会を密に行い本人のストレス軽減に努めている。又、担当医や、家族ともしっかりと情報を共有しながら早い退院に結び付けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設方針として、ターミナルケアは行わないとしている。併設施設との連携を密に行い、家族や本人との相談の上、納得できる形でスムーズに特養への入所が出来るように努めている。	終末期の対応は、現在の職員体制や業務内容では対応困難と考えており、特養入所を家族と検討し、母体特養との連携を図っている。将来、本人・家族の要望があれば、医療機関と協力し、できる限りホームで支援していくことも念頭にあるが、訪問看護や訪問診療のサービスが得られにくい状況にあり、具体的な取り組みまでには至っていない。	訪問看護・訪問診療事業所への働きかけや、家族の協力がどの程度得られるか等検討し、ホームでの見取り希望に備えた取り組みに着手されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医から助言を仰ぎながら、定期的な救急蘇生法勉強などを開催し、スタッフが自身を持って実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、併設施設が実施する際には可能な限り参加している。また、緊急連絡網に近隣住民の連絡先を入れ、緊急時の協力をお願いしている。今後は訓練時の近隣住民の参加を依頼する。	スプリンクラーと火災通報装置を設置し、火災訓練は年3回実施している。夜間想定では母体特養の当直者の応援を得、また、特養で行う消火器操作訓練に参加し、非常時に備えている。地域の防災訓練にも職員が参加し、運営推進会議では、ホームの訓練への住民参加を呼び掛けており、相互に助け合う関係作りが行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアにおいて、スタッフ間で助言しながら、よりよき対応について、ミーティングなどで話し合いをし、資質の向上につなげる努力をしている。	入居者のこれまでの生活環境を考慮し、丁寧な言葉や打ち解けた言葉など使い分け、分かり易く、心地よく感じられる言葉使いに努めている。親しくなるにつれ、押れあいの言動にならないように注意し、職員間で互いに気づいたことを話し合う機会を設けている。同じことを何度も尋ねてくる入居者に、その都度優しく話を聴き、気分転換に努める職員の姿が見られ、一人ひとりを大切にされた介護が実践されていると感じ取れた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め、想いをしっかりと聞きだせるように努めている。また利用者の状態についての共有を常に行い、よりよい関係性の維持に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、及び入浴に限って、おおよそ提供時間決めている。しかし、その時の利用者の状況気持ちを尊重しながら、柔軟な対等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣味趣向に合わせ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事などが好きな方と、準備や片づけを行っている。本人の気持ちが向くような配慮に努めている。	母体特養の献立を基本に、ホームで育てた野菜や近隣から頂いた野菜を使って、入居者の好みの料理にアレンジして、美味しい食事が提供されている。職員も一緒にテーブルに着き、和やかに会話を楽しみながら昼食をとる光景が見られた。時には弁当持参で花見やドライブに出かけたり、道の駅での外食、栗拾いの後は湯がいておやつにしたりと楽しい企画も実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が立てた献立を基に季節感を感じれるような料理を調理し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士などの指導の機会を設け、本人の能力に合わせた口腔ケアの実施や、食前の口腔体操などを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況に合わせて迅速に検討を行い、本人の想いを汲み取りながら、環境作り、配慮に努めている。	各居室にトイレがあり、自分で行く人、声掛けで大丈夫な人が半数を超え、介助が必要な人は数人という状況。リハビリパンツと尿取りパットの使用者には、排尿回数や尿量を把握し、吸収量やテープの有無など検討し、新製品も試しながら、最も適した物を見つけるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保、食事工夫を行いながら、又、主治医や栄養士に相談しながら、気持ちの良い排泄が行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は13:00～16:00の間にて提供。本人の気持ちや希望にあわせ状況も見ながら提供している。	希望者は毎日の入浴も可能だが、本人の意向を確かめながら、1～2日毎の入浴状況となっている。入浴を嫌がる人には、無理強いせず、声掛けを工夫しているが、拒否が強い時は足浴に変更することもある。しょうぶ湯やゆず湯など、季節を感じ取れる工夫を行い、ゆっくりと入浴を楽しんでもらうように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度調整に努め、安眠が得られるように配慮している。どうしても満足いかないような時には、主治医と相談しながら適切な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報などを各スタッフがきちんと把握し、処方の変更があったときには、主治医より十分に注意事項の聞き取りを行い、文書及び口頭による申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から趣味や趣向の聞き取りに努め、入居後も継続して行えるような支援を行っている。又、新たな楽しみごとを見つけ出せるような配慮も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力が得られる方においては、相談しながら、外出・外泊の機会が持てるようにしている。又、月に何度か買い物にいけるような行事の企画なども行っている。	受診の帰りに買い物に寄ったり、数人ずつショッピングセンターや季節折々の花見に出かけるなどの外出支援が行われている。外出には母体特養のリフト車を借りたり、特養職員の応援を得ることもあり、協力体制が築かれている。山鹿市の敬老表彰式典に招かれた入居者は、家族の付き添いが困難であったが、職員が対応し、おしゃれして出席され、大きな喜びとなっている。	職員のみでの外出支援には限界がある為、ボランティアを募り、外出の機会を増やしたいと、運営推進会議で協力を依頼しており、その成果が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭への理解がある方については、家族の方にも確認していただきながら本人管理している方もいる。本人での管理が難しい方については家族、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の使用については制限をしていない。希望時に必要な支援をしている。手紙が届いた際に返事を書かないかと勧め、補助する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやホーム内に季節の花を置いたり季節を感じれる配慮をしている。又、不快さや混乱を招くような状況が見られたときには、迅速に対応し改善を図っている。	建物内部は天井が高く、木の質感を活かした造りで、明るく開放的な雰囲気が漂っている。窓外に山の景色、庭には畑や季節の花が見られ、のどかな景観が広がっている。廊下のあちらこちらに、ちょっと腰掛けて一休みするスペースがあり、和室には床の間、仏壇も置かれて、落ち着ける場所となっている。リビングではソファで談笑する人や新聞を読む人、ベランダで日光浴する人などが見られ、穏やかな暮らしが感じ取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルやイスを設置したり、リビングと居室の間となる空間作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談をし、配置しながら安心して暮らせるように配慮を行っている。	和室と洋室があり、各部屋にトイレが設置されている。ベッドと筆筒は備え付け、全室に時計が整備され、時間の認知が容易でない人も、時計を見て不安解消ができています。それぞれにテレビやラジカセ、家族写真、鉢植えの花等が持ち込まれ、その人らしい居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角になる部分の整理や危険物の除去、トイレや目印になる物の設置など案2年にも配慮しつつ、温かみのある環境作りに努めている		